


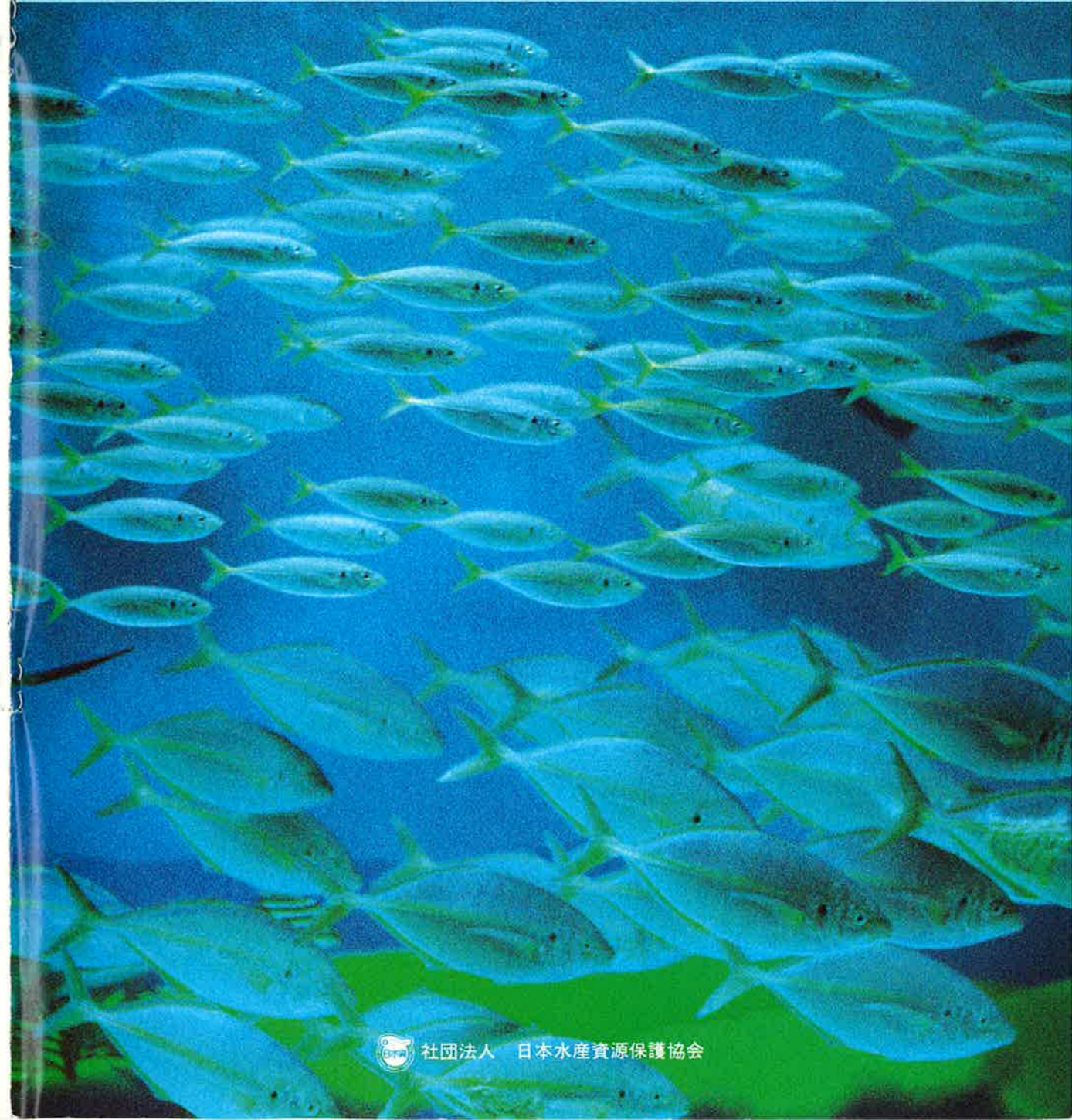
わが国の水産業

あじ・さば



 社団法人 日本水産資源保護協会
〒100 東京都千代田区永田町1-11-35
全国町村会館 TEL 03-593-2481

表紙の写真はマアジ(上部)と
シマアジ(下部)です。

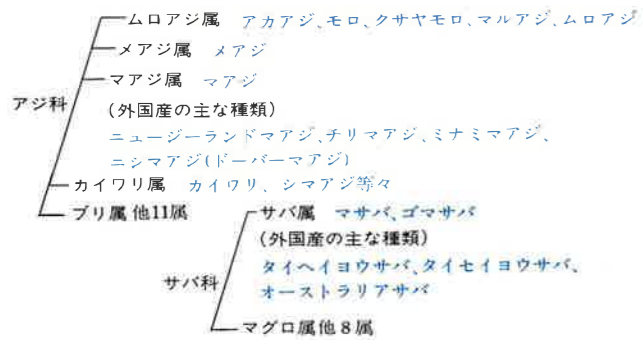
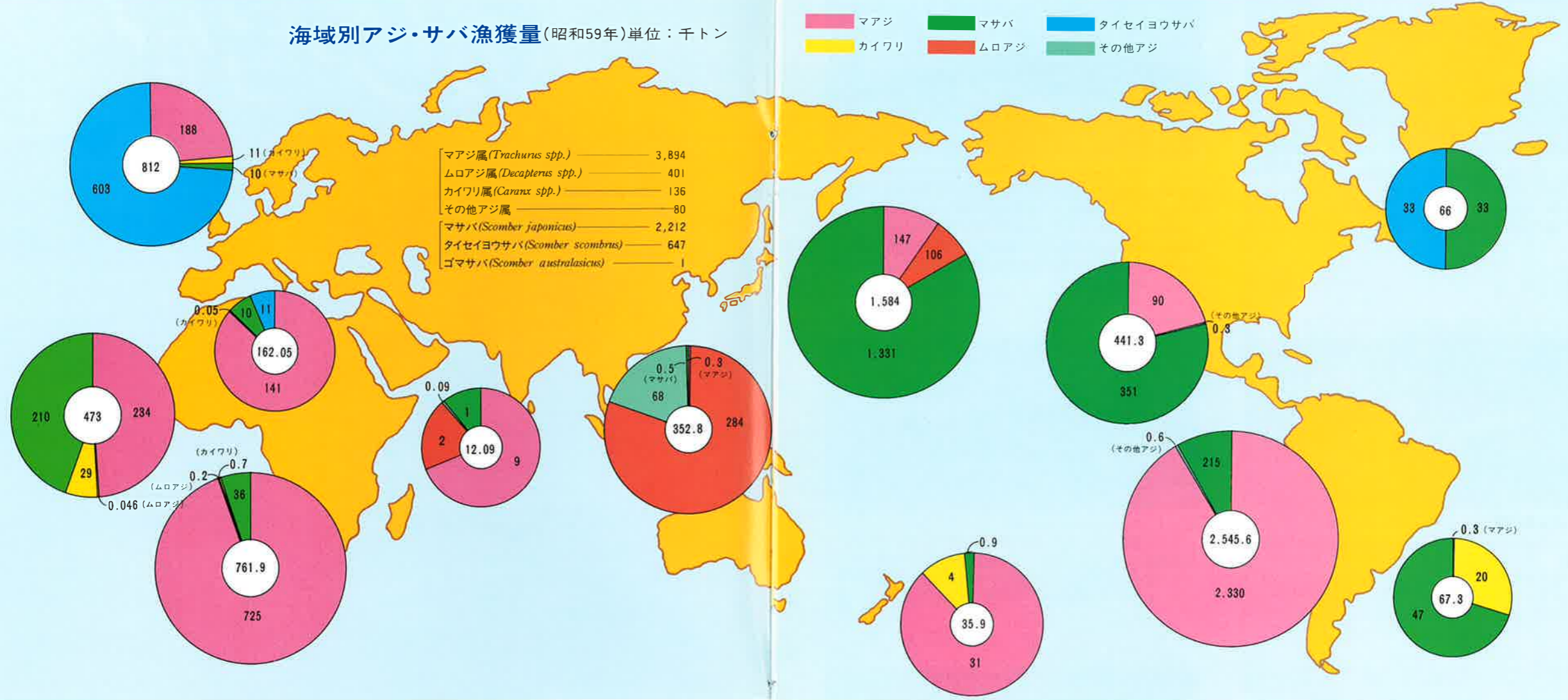


 社団法人 日本水産資源保護協会

世界のアジ・サバ

アジとサバは、分類上は別の科に属していますが、両種とも日本人の食生活になじみの深い代表的な魚であり、漁場や獲り方など共通点が多いので、『あじ・さば』として1冊にとりまとめました。

海域別アジ・サバ漁獲量(昭和59年)単位：千トン



アジ類とサバ類は、ともに広く世界の大陸棚周辺に分布し、日本近海では主にまき網、諸外国ではトロール網で漁獲されています。

アジの仲間は種類が多く、代表的なマアジ属で12種、ムロアジ属は10種以上を数え、世界の暖海域に分布しています。日本近海ではマアジ1種、ムロアジ7種が獲られています。そのほか、ニューゼaland北部沿岸のニューゼalandマアジや大西洋東部沿岸で獲れるニシマアジ(ドーバーマアジ)などがあります。また、近年チリ沿岸のチリマアジの資源量は豊富であると推定されています。

サバの仲間は、北太平洋の西側、主にわが国沿岸でマサバとゴマサバが分布し、多獲されています。同じく東側では北アメリカ西岸のアラスカ湾からカリフォルニアの南部沿岸にかけてタイセイヨウサバが分布しています。大西洋では、ヨーロッパ大陸側から地中海、黒海、及び北アメリカ大陸沿岸にタイセイヨウサバが広く分布し、日本のマサバに次ぐ漁獲があげられています。また、南半球のニューゼaland、オーストラリア沿岸ではオーストラリアサバが分布しています。

FAOによるアジ類の漁獲量は、昭和59年の統計をみると、

マアジ属 389万トン、ムロアジ属40万トン、カイワリ属14万トンなどで、マアジ属が86%と大部分をしめます。日本は、マアジ属を18万トン獲っていますので、世界のマアジ漁獲量の5%を漁獲していることとなります。

また、昭和59年のサバ類の漁獲量は 286万トンで、日本はそのうちの28% (81.3万トン) を漁獲し、日本沿岸でいかに多くを漁獲しているかがわかります。

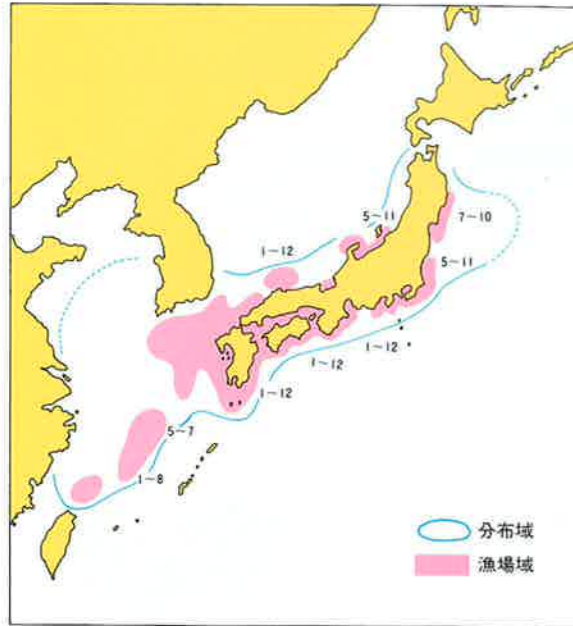
ホッケがあげられます。また、サンマのように暖かい海で産卵し、北太平洋で成長する中間的な魚もいます。



寒・暖流系魚とは：黒潮や暖かい水域で産卵し、一生の大半を過ごすものを暖流系魚と言います。アジやサバは暖流系ですが、典型的なのはカツオやマグロです。親潮のような冷たい水域で産卵・生育するものが寒流系魚で、ニシン、タラ、

日本産のアジ・サバ

マアジ分布模式図 (添字は月)



マアジ *Trachurus japonicus*

北海道南部以南の沿岸に広く分布していますが、東シナ海や九州近海を主な産卵場とする大きなグループがあります。また、沿岸各地に産卵場があり、地域的な小さな群があります。ゼンゴ(Q & A参照)が頭部後方から尾部にまで側線全体に連なっていることから他のアジ類と区別されます。単にアジと呼ぶ場合が多い。体長40cm



ムロアジ *Decapterus muroadsi*

クサヤモロと同じく島や瀬の周辺に分布し、東シナ海のような大陸棚にはほとんどいません。本種の漁獲はそれほど多くなく、一般にムロアジとして出回っているものはモロとマルアジが多いようです。体長40cm



クサヤモロ *Decapterus macarellus*

伊豆七島、小笠原、薩南諸島、沖縄等の島や瀬の周辺に分布します。伊豆七島などで“くさやの干物”にされます。体の背中側は濃い青色であることから伊豆大島ではアオムロとも呼ばれます。体長35cm



モロ *Decapterus macrosoma*

台湾から薩南海域の大陸棚周辺域に分布し、産卵場は東シナ海の南部水域がそれ以南と考えられています。東シナ海ではマルアジとならんで漁獲が多い種です。別名ムロ、モロアジ。体長25cm



マルアジ *Decapterus maruadji*

九州沿岸と東シナ海西部にそれぞれ大きなグループがあり、そのほか本州の各地に地域的な小さな群があります。近年紀伊・豊後水道周辺域にも多く、地域によってはマアジと肩をならべる位の漁獲があります。資源水準も上向いています。体長30cm



アカアジ *Decapterus akaadsi*

東シナ海南部から南シナ海などの南方水域に主として分布します。九州沿岸から本州南岸にかけて、まき網で少量漁獲されます。それぞれの鱗が赤いことが特徴です。体長30cm



メアジ *Selar crumenophthalmus*

本州南岸から沖縄、小笠原、台湾などの太平洋温帯、亜熱帯、インド洋まで分布します。沖縄近海では秋～春に漁獲され、幼魚はカツオ釣の餌に使われます。目が大きいのが特徴。体長25cm



マサバ *Scomber japonicus*

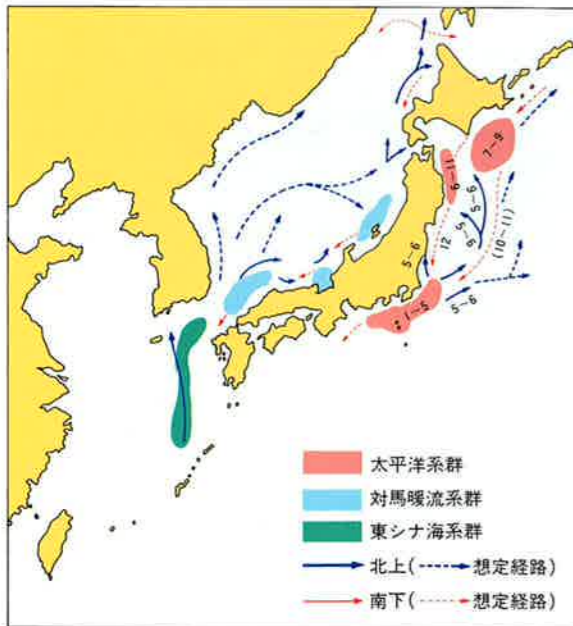
太平洋側、日本海側及び東シナ海側に独立したグループがあり、それぞれ春から夏にかけて北上し、秋から冬には南下回遊します。これらのグループは、それぞれ伊豆諸島近海、五島列島、東シナ海南西部に3～5月頃産卵場を形成します。別名ヒラサバ、ホンサバ。体長50cm



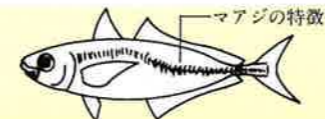
ゴマサバ *Scomber australasicus*

マサバに較べて南方系で沖合寄りに分布し、マサバと同様南北回遊をします。下腹に多数の黒点(ゴマ)があることで、マサバと区別されます。体型から別名マルサバともよばれます。体長50cm

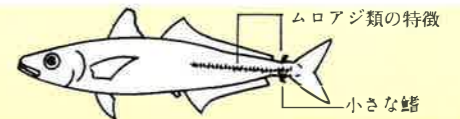
マサバ分布模式図 (添字は月)



マアジとムロアジのみわけ方：マアジのゼンゴ（アジにみられる楕円状の鱗の俗称。縦長の硬い鱗が側線に沿って並んだ様子から“竹筴”と呼ばれる）は側線の全長にわたっています。ムロアジ類は尾鱗のつけ根の部分に背、腹一対の独立した小さな鱗があるのが特徴で、ゼンゴは体の後半、尾部に限られています。(右図参照) また、ムロアジ類の種のみわけ方は、頭頂部の鱗の位置等で行いますが、大変難しいです。



マアジの特徴



ムロアジ類の特徴

小さな鱗